

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-110	A-169	22-059	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Increased alcohol-specific mortality in Germany during COVID-19: State-level trends from 2010 to 2020 COVID-19 中のドイツにおけるアルコール特異的死亡率の増加： 2010 年から 2020 年までの州レベルの傾向			
執筆者			
Kilian C, Carr S, Schulte B, Manthey J.			
掲載誌			
Drug Alcohol Rev. 2023 Mar;42(3):633-640. doi: 10.1111/dar.13573.			
キーワード			PMID
アルコール、アルコール特異的死亡率、COVID-19、ドイツ、パンデミック			36352737
要 旨			
<p>目的：2000 年以降、ドイツでは一人当たりの飲酒量はわずかだが継続的に減少している。しかし COVID-19 のパンデミックによりアルコール特異的死亡率が増加した可能性がある。このような背景から、2010 年から 2020 年にかけてのドイツにおけるアルコール特異的死亡率の傾向を調査した。</p> <p>方法：連邦健康監視情報システムが提供する年間死因統計から死亡率の集計データを入手した。2010 年から 2020 年までの死亡数と死亡率の 2 つの死亡結果を性(男女)別、年齢層(5 歳階級)別または連邦州別に抽出し、記述的に分析した。州別の死亡率は、2011 年のドイツの標準人口で年齢標準化した。</p> <p>結果：全体のアルコール特異的死亡率(年齢標準化)は 2010 年から 2020 年にかけて主に減少している。しかし、2020 年のアルコール特異的死亡率は 2019 年に比べ、男性(+4.8%)、女性(+5.5%)ともに増加しており、特に 40 歳から 69 歳の年齢層で増加していた。2020 年は合計 14,218 人のアルコール関連死が登録され、その 90%以上がアルコール使用障害またはアルコール性肝疾患によるものであった。アルコール特異的死亡率の変化は連邦州によって異なり、東ドイツではより急激な増加がみられた。</p> <p>結論：ドイツのアルコール特異的死亡率は、2016 年以降減少傾向にあったが 2020 年に逆転して増加が観察された。この増加は中高年と東部の州でより顕著であった。パンデミックによる 2021 年の負荷は大きいため、アルコール特異的死亡率はさらに上昇すると予想される。</p>			